
2023年3月期 第1四半期決算説明会

2022年8月1日



三越伊勢丹ホールディングス

I : 2023年3月期 第1四半期実績

II : 2023年3月期 通期計画

I : 2023年3月期 第1四半期実績

II : 2023年3月期 通期計画



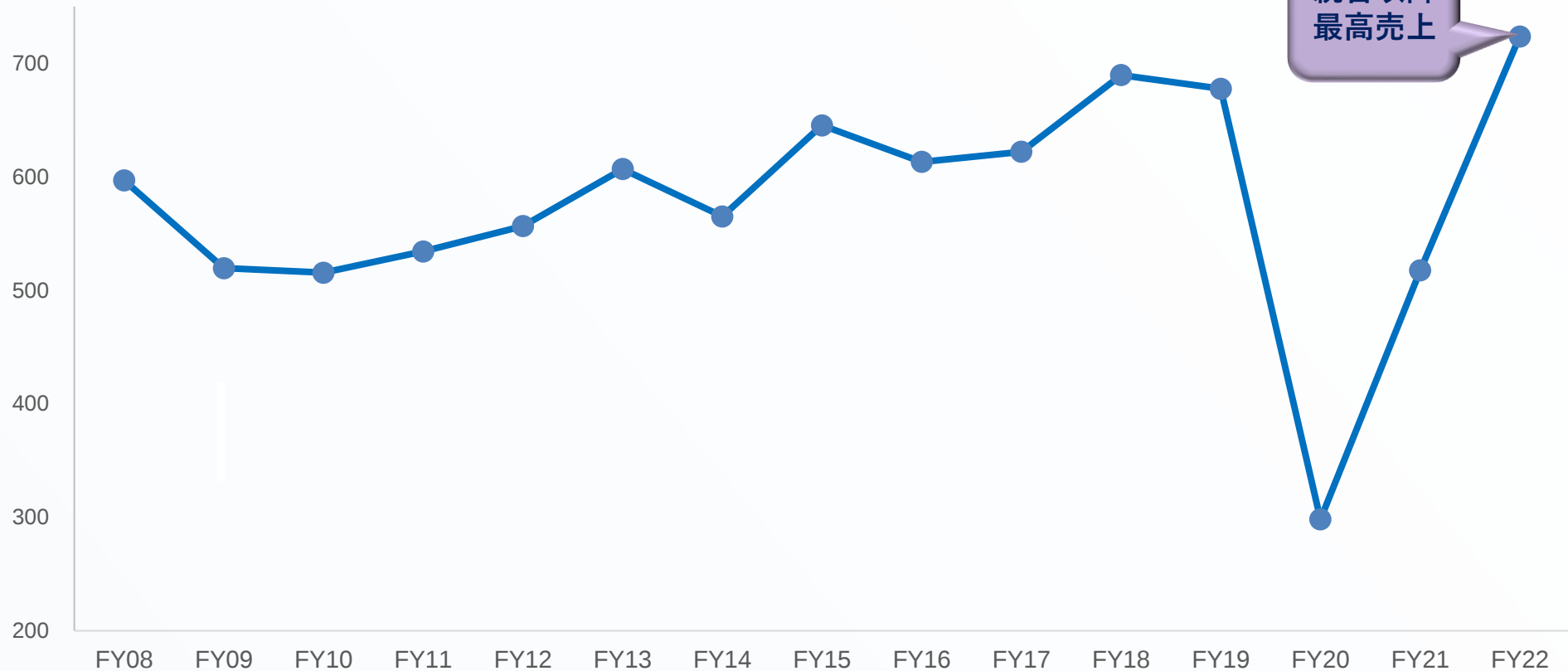
- ・ 今期は4月に4か月ぶりとなるコロナの全国行動制限解除により、売上高は百貨店を中心に大幅な増収。
- ・ 販管費は前年反動増や売上連動費増があるも経費コントロールを着実に進めたことで、営業利益は前年差+99億円、当期純利益は同+143億円の大幅増益を果たし、黒字転換。
- ・ 参考値として、営業利益39億円は、収益認識基準適用前では68億円のレベル。

（億円）	1Q （4-6月）	前年比	前年差	（参考） 収益認識基準 適用前
総額売上高	2,428	123.7%	+465	2,428
売上高	1,016	114.7%	+130	—
売上総利益	621	124.0%	+120	696
販売管理費	581	103.7%	+20	628
営業利益	39	-	+99	68
経常利益	45	-	+102	73
当期純利益	56	-	+143	84



- ・伊勢丹新宿本店の第1四半期売上高は、免税売上が戻らない中でも統合以降で最高売上。
- ・今後も高感度上質戦略、CRM戦略を引き続き推進し、売上高の拡大を図る。

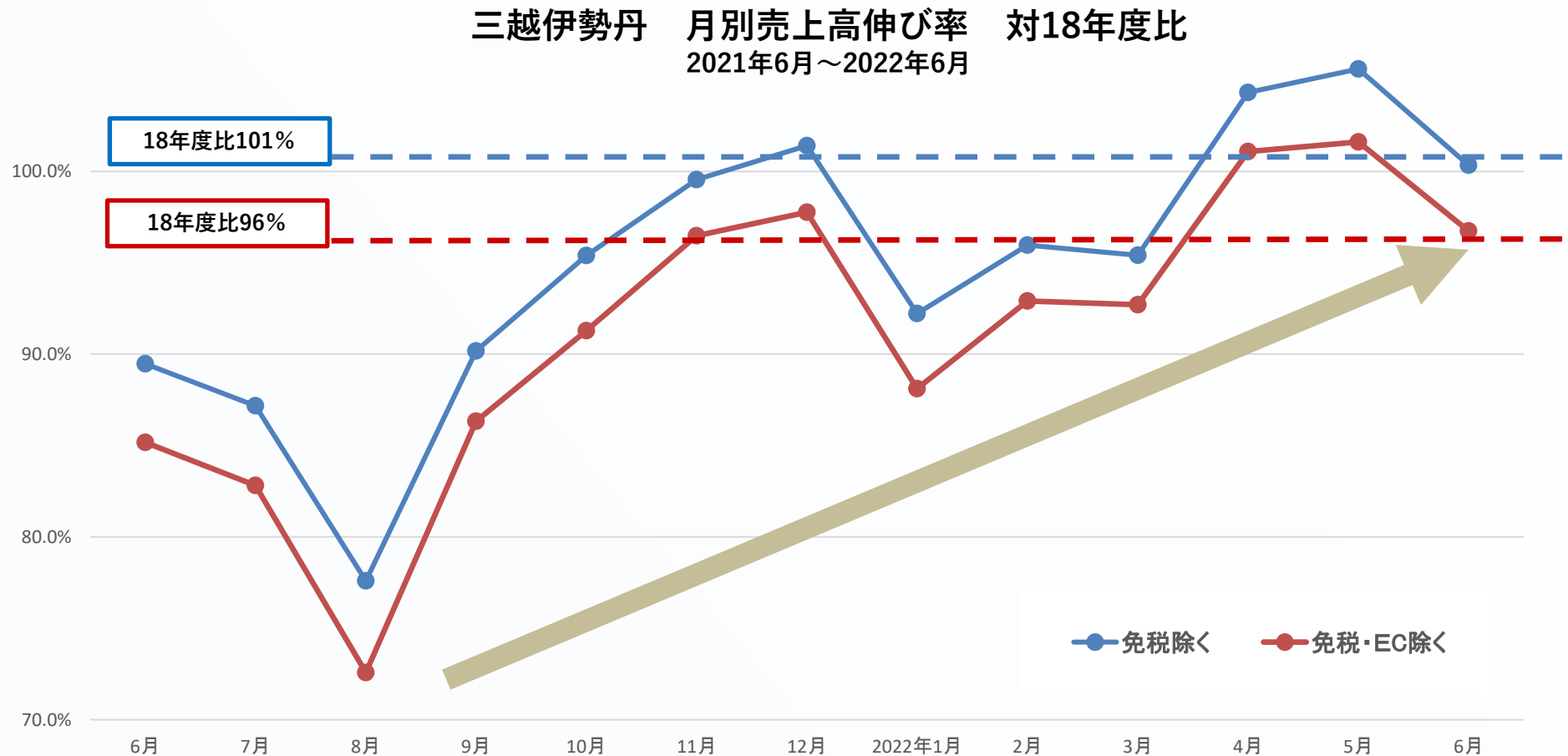
伊勢丹新宿本店 1Q売上高 年度別推移
2008年～2022年



※ 収益認識基準適用前、総額売上高ベース



- 三越伊勢丹の売上高の回復傾向は変わらず、22年度通期計画ライン（18年度比・免税除く101%、免税・EC除く96%）を上回って推移。



※ 伊勢丹相模原店・伊勢丹府中店・恵比寿三越は除く
※ 収益認識基準適用前、総額売上高ベース



- ・ 収支構造改革による経費削減は▲23億円、5月公表年間計画▲47億円の約半分まで進捗。
- ・ 国内外の先行き不透明なリスクの状況に応じ、機動的な経費コントロールを継続。

			前年増減の内訳				
			前年戻り	当年増減			
(億円)	1Q (4-6月)	前年増減	緊急対策 コロナ特損	収支 構造改革	売上連動	営業強化 施策	その他
人件費	210	▲6	+ 8	▲15			
宣伝費	16	▲0		▲1			
地代家賃	78	+ 5	+ 4	▲1	+ 3		
外部委託費	70	+ 2	+ 3	▲3		+ 2	
減価償却費	57	+ 4	+ 5				
その他	148	+ 15	+ 3	▲4	+ 11		+ 6
合計	581	+ 20	+ 23	▲23	+ 14	+ 2	+ 6



- ・百貨店業 : 外出機会拡大や消費意欲の改善を背景に増収、営業利益は+101億円の大幅改善により黒字転換。
- ・クレジット・金融業 : 外部取扱高増加により総額売上高は拡大、先行投資は計画通り実施。
- ・不動産業 : 建装事業強化により総額売上高は拡大。

(億円)	総額売上高	前年比	売上高	営業利益	前年差	(参考) 収益認識 基準適用前 営業利益
百貨店業	2,309	125.9%	917	19	+101	41
クレジット・ 金融・友の会業	86	101.8%	73	10	▲5	17
不動産業	42	104.5%	42	10	▲2	10
その他※	△9	—	△18	△1	+6	△1
合計	2,428	123.7%	1,016	39	+99	68

※その他には調整額を含む

I : 2023年3月期 第1四半期実績

II : 2023年3月期 通期計画



- 国内店頭売上は堅調に推移しているものの、コロナウイルス感染症拡大等の影響が不透明なことから総額売上高は5月計画値を据え置き。
- インバウンドは入国制限の見直しが行われたものの、先行きは不透明なため、直近のトレンドを継続。
- さらなる物価上昇による経費増や為替影響は一定程度考慮。
- 業績に連動した経費コントロールは柔軟かつ機動的に対応。



- ・総額売上高：感染症拡大等の影響が不透明なことから、5月計画値を据え置き。
- ・販売管理費：売上高の先行き不透明な状況を踏まえ、収支構造改革を更に推進。
- ・営業利益：足元の差益率改善、収支構造改革を踏まえ上方修正。

(億円)	通期	前年差	前年比	5月計画差
総額売上高	10,500	+1,378	115.1%	—
売上高	4,940	+756	118.1%	—
売上総利益	2,790	+353	114.5%	+10
販売管理費	2,620	+242	110.2%	▲20
営業利益	170	+110	286.2%	+30
経常利益	170	+74	178.6%	+30
当期純利益	190	+66	154.0%	+20



- ・収支構造改革は▲57億円とし、5月計画値▲47億円から更に10億円削減を計画。
- ・営業強化施策は+43億円、機動的発動をしつつ内容を精査し、5月計画値+53億円から10億円を削減、引き続き経費コントロールを実施。

			前年増減の内訳					
			前年戻り	当年増減				
(億円)	22年度計画	前年増減	緊急対策 コロナ特損	収支 構造改革	売上連動	営業強化 施策	新規連結	その他
人件費	937	+71	+61	▲29			+39	
宣伝費	105	+22		▲2		+22	+2	
地代家賃	332	+30	+7	▲2	+8		+17	
外部委託費	292	+7	+3	▲12		+10	+6	
減価償却費	250	+20	+6			+2	+12	
その他	704	+92	+3	▲12	+45	+9	+26	+22
合計	2,620	+242	+79	▲57	+53	+43	+102	+22



- ・百貨店業：足元の差益率改善、収支構造改革推進を踏まえ、営業利益を5月計画値+30億円と上方修正。
- ・百貨店業以外：5月計画値を据え置き。

（億円）	総額売上高	前年比	売上高	営業利益	前年差	5月計画差
百貨店業	9,600	111.4%	4,140	70	+133	+30
クレジット・ 金融・友の会業	340	103.2%	310	50	▲10	—
不動産業	240	132.8%	240	46	▲9	—
その他※	320	(△6)	250	4	▲2	—
合計	10,500	115.1%	4,940	170	+110	+30

※その他には調整額を含む



- ・ 4月25日の緊急事態宣言に伴い首都圏三越伊勢丹は生活必需品を除き休業
- ・ 首都圏三越伊勢丹は5月19日に営業を再開（一部休業は継続）
- ・ 6月1日より平日は全館通常営業、休日は一部休業とし、6月21日より全館通常営業

4月25日～5月18日		5月19日～5月30日		6月1日～20日		6月21日以降	
店舗	営業条件	営業条件	営業条件	営業条件	営業条件	営業条件	営業条件
伊勢丹新宿本店	休業 ※生活必需品のみ時短営業	営業再開（生活必需品のみ） ※一部休業	平日が通常営業 土日は宝飾、アクセサリー、美術が休業。ラグジュアリーブランドは原則事前予約 ※アクセサリーは12日から通常営業	平日が通常営業 土日は宝飾、アクセサリー、美術が休業。ラグジュアリーブランドは原則事前予約 ※アクセサリーは12日から通常営業	平日土日ともに全館通常営業 （レストランは20時まで、酒類は19時まで）	平日土日ともに全館通常営業 （レストランは20時まで、酒類は19時まで）	平日土日ともに全館通常営業 （レストランは20時まで、酒類は19時まで）
三越日本橋本店							
三越銀座店							
伊勢丹立川店							
伊勢丹浦和店	レストランのみ時短営業	レストランのみ時短営業	レストランのみ時短営業	レストランのみ時短営業	レストランのみ時短営業	レストランのみ時短営業	レストランのみ時短営業

丸井今井札幌本店	通常営業	生活必需品のみ営業 ※土日は休業	平日は全館通常営業 土日は生活必需品のみ営業 6月5日から時短営業	全館通常営業 ※一部店舗ではレストランは20時まで、酒類は19時まで
札幌三越		通常営業	通常営業	
函館丸井今井			通常営業	
仙台三越		生活必需品のみ営業 ※土日は休業	平日は全館通常営業 土日は生活必需品のみ営業	
新潟伊勢丹			通常営業	
名古屋三越栄店		生活必需品のみ時短で営業 ※土日は休業	平日は全館通常営業、土日は生活必需品のみ営業	
名古屋三越星ヶ丘店		通常営業	通常営業	
静岡伊勢丹			通常営業	
広島三越		生活必需品のみ営業 ※土日は休業	平日は全館通常営業 土日は生活必需品のみ営業	
高松三越			通常営業	
松山三越	生活必需品のみ営業 ※土日は休業	平日は全館通常営業 土日は生活必需品のみ営業		
岩田屋本店			5月12日から時短営業	
岩田屋久留米店			通常営業	
福岡三越	5月12日から時短営業			